



2011年4月25日  
 編集・発行：(財)日本国際協力システム  
 〒162-0067  
 東京都新宿区富久町10番5号  
 新宿EASTビル  
 Tel: 03-5369-6960  
 Fax: 03-5369-6961  
 E-mail: jics@jics.or.jp  
 http://www.jics.or.jp

## 援助をカタチに



# JICS Report

JICSの実施事業を、毎回、テーマを絞りこんで紹介する広報誌。年4回(1・4・7・10月)お届けします。



▲photo: 上から  
 ●パレスチナ支援—完成した道路と日本の援助を示す看板  
 ●パレスチナ支援—ラマラのJICSプロジェクトオフィスにおけるパレスチナ関係者との会議  
 ●ラオス・ファランサイの「道の駅」の開通式

## 東北地方太平洋沖地震で被災された皆様へ

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で被災された地域の皆様、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

また、被災地で救援活動にあたられている方々に、心からの敬意と感謝の意を表します。

理事長 仲谷 徹

次ページに各国から届いたお見舞いの言葉を掲載しています

### 特集

## パレスチナ自治政府の支援プロジェクトを実施

パレスチナ自治政府に対して実施されている「紛争予防・平和構築無償」および「コミュニティ開発支援無償」においてJICSが調達代理機関を務めるプロジェクトで、続々と計画対象施設が完成しています。

中東和平プロセスにおいても重要な位置を占める、同自治政府に対するこれらの支援について、その概要・状況をご報告します。

## Topics

- 2010年度 第二回通常評議員会および理事会を開催
- ASEAN地域における物流の円滑化・効率化を目指して
- ASEAN/ASEF 新型インフルエンザ対策支援
- JICS NGO 支援事業 平成22年度支援団体が決定!

# ・東北地方太平洋沖地震と津波による被害に対する各国からのお見舞い・

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震およびそれに伴う津波により、東北地方を中心に甚大な人的・物的被害が発生したことを受け、世界各国・地域から多くのお見舞いや支援が届いています。

今回、先進国のみならず、ODA対象国である低所得国や後発開発途上国からも支援や義援金が届いており、これらはこれまで積み重ねてきた日本の途上国援助を中心とする国際貢献ゆえの反響とも考えられます。

調達業務を通してODAの実施の一翼を担うJICSも、海外政府関係者・援助関係者・各国企業などから137件のお見舞いの言葉をいただいています(4月14日現在)。

これらは、日本のODAを受けた各国・地域の人々から日本に向けたメッセージであると捉えられますので、そのいくつかをご紹介します。

## ■ インドネシア 国家開発企画庁 長官

「このたびの地震と津波による災害に際し、日本政府および国民の皆様にご心からお見舞いとお悔やみを申し上げます。災害の影響が甚大で壊滅的だとしても、日本はそのような災害に備えた強い国であると考えています。よって、日本政府と国民の皆様の多大な努力により速やかに回復すると確信しています」

## ■ スリランカ デヴァパティラジャ小学校\*の方々

\*スマトラ沖大地震の津波に対する日本の支援により建設

「皆様が直面している痛ましい状況に関し心からのお悔やみを申し上げます。地震と津波が発生したというニュースを聞き、学校関係者、生徒たちとその両親、卒業生は深い悲しみに沈み、日本の皆さんに対する私たちの同情の気持ちをお伝えしたいと考えました。

## 特集

# パレスチナ自治政府の支援プロジェクトを実施

「平和と繁栄の回廊」構想の具体化に向けた、3つの支援プロジェクトに取り組んでいます。

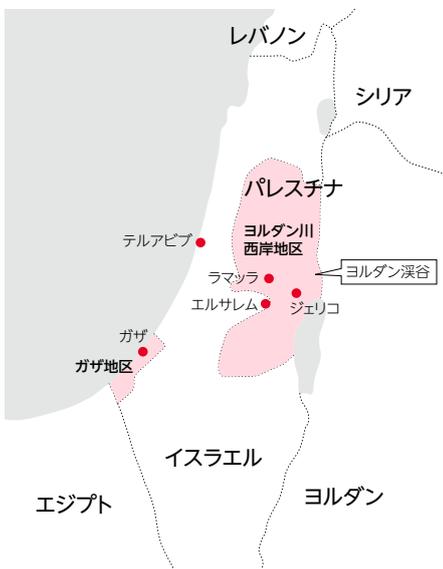
日本政府は、イスラエルとパレスチナの共存共栄に向けた取組みとして、「平和と繁栄の回廊」という構想を掲げ、ODAを活用して、イスラエル・パレスチナ・ヨルダンの域内協力を強化し、ヨルダン渓谷の経済開発を推進することを目的とした支援を実施しています。それらの支援のうち以下の3プロジェクトに関して、JICSはラマツラにプロジェクトオフィスを設置のうえ、調達代理業務\*を実施しています。

### ※調達代理業務

先方政府の「代理人」として、無償資金協力により先方に贈与された援助資金を管理するとともに、案件実施に必要な資機材の調達や役務の選定に関する一連のプロセス(入札図書作成、入札実施、契約、納品・施工監理など)の実施、案件全体の管理を行うこと。



▲ 整備前(上)と整備後(下)のAbu Al Mounther (アブ・アル・ムンザー)通り



▲ ヨルダン川西岸地区が各プロジェクトの対象地域

## ● 紛争予防・平和構築無償 ジェリコ市内生活道路整備計画

ヨルダン川西岸地区の東側にあるジェリコ市は、パレスチナとヨルダンの国境に位置する交通の要衝です。しかし、市内道路の約60%が未舗装であり、市民生活や商業活動に支障が出ているため、パレスチナ自治政府から日本政府に対し、これらの道路整備にかかる援助の要請があり、2008年12月23日、「ジェリコ市内生活道路整備計画」の実施が決定されました。

本プロジェクトの一環として工事を行ったアル・クオッツ道路はジェリコ市の主要な玄関口にあたります。この道路の完成に際して、ハッサン・サレジェリコ市長をはじめとする多くの関係者が参加し、開通式が行われました。2011年3月には本プロジェクトで計画していたすべての工事が完了しています。

私たちも2004年に同様な状況を経験しました。今こそ私たちは日本政府と日本の人々による貢献と献身を思い出し、感謝しなくてはなりません。私たちは、皆様の国を本来の状態に戻すためにできることは何でもしたいと思っています」

### ■ ペルー イカ市上下水道公社 総裁

「我々の日本の兄弟が地震と津波により経験した未曾有の災害と甚大な被害に対し、心の底から、お悔やみ申し上げます。イカ市上下水道公社は、2007年8月15日の地震により打撃を受けた市民の健康と成長に欠かせない、飲料水の供給へ資する日本の援助に対し、あらためて心から感謝の意を表します」

### ■ カンボジア 地雷対策センター (Cambodian Mine Action Centre:CMAC) 長官

「2011年3月11日に発生した強力な地震と津波により多くの命が失われ、甚大な損害を受けたことに深い悲しみを感じています。日本の人々、特にこの災害により愛する人を失った方々に最も深い同情と哀悼の意を表します。

この悲劇は世界に衝撃を与え、カンボジアに住む我々にも強く影響を及ぼしました。CMACは日本と共に何年間も活動し、固い友情を育ててきました。私たちは、友人である日本の方々非常に大きな損害を受けたことに深い悲しみを感じています。この困難な時、私たちの思いと祈りは日本の皆さんと共にあります。日本の人々の、有能で、経験豊かで、積極的に困難に立ち向かう精神のもと、政府と日本の人々が勇気と尊厳をもって確実にこの逆境を克服することを確信しています」



▲ 両国関係者がテープにハサミを入れ、いよいよ開通へ



▲ (上)ワディ・ファアラ女子校は2番目に完成  
(下)生徒たちで賑わうアル・ファアラ男子中等学校

### ● コミュニティ開発支援無償 ヨルダン川西岸地区学校建設計画

ヨルダン川西岸のラマツラにおいて、「ヨルダン川西岸地区学校建設計画」(2009年2月26日決定)が実施されています。本プロジェクトは、初等・中等教育の就学者数の急増に対して学校施設が不足しているヨルダン川西岸地域において、新たな学校を建設するものです。

本プロジェクトの当初計画に沿って建設を進めてきた5校の学校が完成し、2011年1月から2月にかけて、

順次パレスチナに引渡されました。入札を通して強い競争性が働き、予定よりも安価に建設できたため、現在、追加建設の必要性が認められた2校の施工を行っています。

### ● コミュニティ開発支援無償 ヨルダン渓谷コミュニティのための 公共サービス活動支援計画

パレスチナ自治区では、イスラエルによる移動・土地利用など多くの制約により経済が疲弊し、住民は厳しい生活環境におかれているため、公共

福祉の拡充が必要となっています。特にヨルダン渓谷地域では、生活の過酷さから集団離村も起きるなど、公共サービス改善の必要性は非常に高くなっています。

このため日本政府は、2010年3月より同地域住民の生活環境の改善を目的に、ヨルダン渓谷において緊急性の高い医療施設、教育施設、コミュニティ施設およびそのほかの基礎インフラ施設建設のための無償資金協力を実施しています。

## 2010年度 第二回通常評議員会および理事会を開催

JICSが進むべき方向性について活発な審議がなされる

2011年3月17日に2010年度第二回通常評議員会が、翌18日に同理事会がJICS会議室にて開催されました。

評議員会では、(1)2010年度事業計画と収支予算(改定)、(2)2011年度事業実施方針と事業計画、(3)2011年度収支予算、(4)役員を選任、(5)公益法人制度改革における移行方針の変更および最初の評議員の選任、(6)公認会計士による監査結果の報告について審議が行われ、承認されました。

理事会では(1)から(3)および(5)(6)に加え、理事長・専務理事の選任、評議員の選出および移行後の最初の評議員候補者について審議し、議決されました。

平成23年度予算政府原案では、ODA予算はピーク時である平成9年度の半分以下まで減額となるなど、取り巻く事業環境は引き続き厳しさが増しているものと考えられます。このようななか、JICSの2011年度の事業実施方針として、右記の4点を挙げました。

また、公益法人制度改革における移行の方針については、開発途上国などに対する国際協力の分野において、現在実施しているような各種調達業務を通じて将来にわたり安定的かつ継続して貢献していくためには、組織運営に係る基準において公益法人よりも自由度が高いと考えられる、一般財団法人への認可申請を行うことが適当との結論に達しました。

JICSでは以上の方針のもと、援助を適正かつ効率的に、見えるカタチにするサービス・プロバイダーとしての役割を果たすべく、日々の事業に邁進していきます。

### 2011年度の事業実施方針

- ①変化しつつあるODAニーズにも対応した的確な事業の実施
- ②国際的調達機関に相応しい組織となるための能力向上と事業拡大
- ③情報公開・外部発信機能の拡充と強化および社会貢献
- ④法人移行に向けた諸準備の推進



▲ 評議員会



▲ 理事会

### 東西経済回廊・南部経済回廊物流効率化プログラム

## ASEAN地域における物流の円滑化・効率化を目指して

ラオスとカンボジアに「通関・税関施設」「道の駅」が完成

ASEAN地域が世界的に競争力のある生産拠点として機能し、市場としても発展していくために不可欠な物流、とりわけ域内の越境輸送の効率化を目的に、日・ASEAN統合基金(JAIF)<sup>\*</sup>の一部を活用した「東西経済回廊・南部経済回廊物流効率化プログラム」がカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムで実施されています。

本プログラムは、財団法人日本国際協力センター(JICE)とJICSが共同企業体を形成し、互いの得意分野を活かして、JICEは人材育成などのソフト部分を、JICSはハード部分を担当しています。

2011年1月、本プログラムにより、ラオスの東西経済回廊上のデンサワン(ベトナムとの国境地点)において作業を進めてきた貨物用の「通関・税関



▲ プログラムの対象地域。2つの大きな点線が経済回廊

施設」の整備が完了し、2月に先方政府に引渡されました。また、カンボジアのポーサットとラオスのファランサイで建設を進めてきた「道の駅」も完成し、1～2月にかけて、それぞれ先方政府に引渡されました。

カンボジアの「道の駅」では、現地の特産品である大理石の加工品や織物などを、ラオスの「道の駅」では、独立行政法人国際協力機構（JICA）の技術協力支援により開発された一村一品の商品（ODOP: One District One Product）などを販売しています。

ASEAN域内で「道の駅」を整備し、道路利用者に対する休憩サービス・観光情報を提供することで回廊の安全性・利便性がさらに向上するほか、回廊沿いの地元生産物の販売、地域住民の雇用などを通じ地域産業の発展を促進することが期待されています。

※日・ASEAN統合基金（Japan-ASEAN Integration Fund: JAIF）：ASEAN共同体形成のために日本の拠出金により創設された基金



▲ ラオス・デンサワンの貨物用「通関・税関施設」



▲ カンボジア・ポーサットに完成した「道の駅」

## ASEAN/ASEF 新型インフルエンザ対策支援

### 関係機関が集まり年次会議を開催

2011年2月21・22日、JICS本部会議室にて「日・ASEAN統合基金新型インフルエンザ対策支援」プロジェクトと「ASEF日本信託基金新型インフルエンザ対策支援」プロジェクトに関する年次会議を開催しました。同会議には、世界保健機関西太平洋地域事務局（WHO/WPRO）、日本政府、東南アジア諸国連合（ASEAN）事務局、アジア欧州財団（ASEF）、JICSのプロジェクト関係者が参加しました。

新型インフルエンザ対策支援に関する年次会議は、2006年以降、毎年開催されています。今回は、新型インフルエンザ発生の可能性についての情報共有、および、有事の際に関係機関が果たすべき役割や連携体制、具体的な手順などを再確認しました。なかでも、毒性の強い新型インフルエンザに変異する可能性が高いといわれている鳥インフルエンザの発生件数が増加するなか、迅速に対応するためのリスクコミュニケーションおよびロジスティクスの体制構築の重要性などに重点をおいて会議が進められました。

この両プロジェクトは、ASEAN加盟国、アジア欧州会合（ASEM）メンバー国やその近隣国で新型インフルエンザが発生した場合の感染拡大に備え、抗インフルエンザウイルス薬および防護用品などの調達・備蓄を行うとともに、感染発生時にそれらの緊急放出を実施するものです。両プロジェクトに関してJICSは、抗インフルエンザ薬と防護品の調達、備蓄倉庫の手配、プロジェクト対象各国への事前配備、有事の際の備蓄品投入オペレーションなどを担当しています。



▲ 年次会議の様子



▲ さまざまな機関から集まった参加メンバー

## JICS NGO支援事業

# 平成22年度支援団体が決定！

JICSでは、より効果的で、きめ細かい国際協力の実現を目的とし、社会活動の一環としてNGOへの支援を積極的に行っています。

平成22年度は、2010年7～9月の約3カ月間、支援を希望するNGOを募集し、40団体から応募をいただきました。その後、審査委員会での審議を経て、13団体への支援が決定しました。

この事業の大きな特色として、組織強化のための人材の雇用に必要な経費や、人材育成費用など（団体基盤強化費）も支援の対象となる点が挙げられます。平成22年度に応募があった40団体中、26団体から団体基盤強化費の申請があり、あらためてNGO団体の組織強化に向けた強い意欲が感じられました。今後もNGOや有識者との意見交換などを通じ、役立つ支援を追求していきたいと考えています。

### ● 平成22年度支援団体一覧

団体名	対象国	支援事業内容	支援金額
特定非営利活動法人 アジア・コミュニティセンター 21	日本	ホームページの再構築とフィリピンに関わるNGOの情報収集を実施し、情報交換、連携促進活動の場を広げる。	団体基盤強化費 800,000円
特定非営利活動法人 アフリカ児童教育基金の会	ケニア	エイズ検査機器を購入し、ケアセンター設備の充実と検査システムの完備・強化を行う。	資機材の購入費／輸送費 800,000円
認定特定非営利活動法人 ESAアジア教育支援の会	インド・バングラデシュ	現地責任者とコーディネータ会議を実施。中長期計画を策定し団体運営の強化を図る。	団体基盤強化費 702,000円
特定非営利活動法人 NGO福岡ネットワーク	日本	専従職員の補充、パソコン購入などにより、中長期計画の実施と加盟団体の活動支援強化を行う。	団体基盤強化費 790,652円
特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会	日本	ホームページを再構築し、国際交流・協力分野の連合体として、より充実した情報提供を行う。	団体基盤強化費 800,000円
特定非営利活動法人 国際ボランティアセンター山形	カンボジア	農業技術向上に役立つ算数の基礎学力の習得強化を目指し、教材作成、トレーニングのモニタリングなどを実施する。	資機材の購入費／輸送費、プロジェクト運営費 780,000円
特定非営利活動法人 スーダン障害者教育支援の会	スーダン	点字板を購入、送迎の実施により、視覚障害児の教育の場を増やすとともに、その重要性を広く伝え、活動強化を図る。	プロジェクト運営費 756,000円
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター	日本	Web募金サイトの充実を主としたホームページの再構築を行い、地域NGOと地域型ネットワークの基盤強化を図る。	プロジェクト運営費、団体運営費 778,400円
特定非営利活動法人 難民支援協会	日本	国内の難民を取り巻く状況について、よりわかりやすいホームページを制作し情報発信の強化を図る。	団体基盤強化費 600,000円
特定非営利活動法人 ヒューマンライツ・ナウ	日本	専従職員を補充し、講座企画・運営、会員拡充、ファンドレイジングなどの実施体制強化を図る。	団体基盤強化費 700,000円
特定非営利活動法人 道普請人	フィリピン	専従職員を補充し、国内財務、情報管理強化を図り、現地における灌漑施設整備活動の円滑な実施に役立てる。	プロジェクト運営費、団体基盤強化費 680,000円
特定非営利活動法人 Link・森と水と人をつなぐ会	タイ	地元住民の貧困解消のための土地返還活動に必要な現地森林地図を作成し、行政との交渉力を高める。	資機材の購入費／輸送費、プロジェクト運営費 800,000円
特定非営利活動法人 わくわくガイア	ミャンマー	女学校・孤児院で利用するセーター編み機、PCセットを購入し、技能講習の強化と講師雇用の支援を実施する。	資機材の購入費／輸送費、プロジェクト運営費 950,000円

## NGO紹介

このコーナーでは、これまでにJICSが支援した団体より、事業実施状況について報告していただきます。

沖縄NGOセンターには、現在の会員はもとより、前身である沖縄NGO活動推進協議会時代の事務職員や理事・会員経験者、シンポジウムや講座などのイベント参加者、ボランティア経験者および希望者、県内マスコミ、講師派遣事業の依頼主など、つながりのあった方々のデータが新旧、入り交じって蓄積されていました。当会の活動に何らかの興味を持ってくださった人々は、当会のミッション達成に向けた仲間であり、地理的に限られた沖縄という島で活動するネットワーク団体にとって、活動の蓄積とは、まさにこうした沖縄に住む一人ひとりの関係の蓄積にほかなりません。しかしながら、日常の多忙な業務の手を止め、膨らむ一方のデータを一から整理して、使いやすいように

## つながりのある人々の情報を整理し、データベースを構築

### 【(特活)沖縄NGOセンター】 Okinawa NGO Center

データベースを構築するのに必要な知識・技能の習得が不足していました。

今回、JICSの支援を受け、データベースの基礎となる情報を整理し、管理システムを構築することができました。会員獲得、広報活動、資金調達活動を含む活動全般の向上に向けて基本的なIT環境を整備し、事務局作業の効率化を図りデータ管理を行いやすくするとともに、セキュリティ体制も整えました。また、団体向けにデータ管理とセキュリティ講座を実施しました。参加団体からは、「これまで何となく取り組んでいたが、あらためてセキュリティ対策を講じる意義が理解でき、また、すぐに取り組める情報が得られて良かった」との声をいただいています。



▲ JICSの支援で新しいPCを購入し、作業効率があップ

### 【(特活)沖縄NGOセンター

世界と沖縄、私たち、国際協力・交流に関心のある団体・個人とのつながりを大切にしながら、地球市民を育成し、公正な社会を創造することを目指しています。

<http://www.oki-ngo.or.tv/>

### JICS NGO支援事業：2009年度

対象国：日本

支援事業の内容：組織基盤強化のためのデータベースの構築、および県内NGO向けの人材育成講座を開催するための費用など、合計100万円を支援。

# アフリカ最西端の岬から続くカラフルな砂浜

清 卓也

在セネガル日本国大使館 出向中

▲ 西アフリカ  
地域

▲ 遠浅が続く砂浜を、大西洋の波が洗う

セネガル共和国は、西アフリカ地域にあり、首都は、皆さんもご存じの「ダカール・ラリーレース（通称パリ・ダカ）」の終点ダカール\*です。ダカールには、アフリカ大陸最西端の岬アルマディがあります。そこに特別な何かがあるわけではないのですが、アフリカ最西端の眺望を楽しめます（当たり前ですが…）。

この最西端の岬から北上してモーリタニア、モロッコまで、アフリカ大陸の西海岸は非常にきれいな砂浜が続きます。その砂浜は遠浅で砂の肌理が非常に細かく、波が引いた後には、水を含んだ砂が鏡のように空の色を反射します。雨季の夕暮れ時になると、そこに夕日が反射して、空の色と同じ薄紅色となります。この景色を見ていると、世界全体が淡い薔薇色に燃え上がっているような錯覚に陥ることがあります。『星の王子さま』の著者

サン＝テグジュペリは、若い頃にトゥールーズ～セネガル間の郵便飛行機のパイロットをしていたことがあるそうです。もしかすると、この海岸線を眼下に見おろしながら、一路セネガルを目指したのかも知れないと想像しています。

こんな素敵な砂浜を持つセネガルは、1960年にフランスから独立して以来、大きな内乱などもなく安定した政治状況を維持してきました。大好きなセネガルが、西アフリカの基軸国として、これからも安定的に発展していくことを支援していきたいと思っています。

\* 2007年12月にモーリタニアで起きた、アルカイダが関与しているとの噂もある「フランス人観光客殺害事件」を契機に、「パリ・ダカ」は、一時的なレースの中止を経て、現在では、南米（アルゼンチン～チリ間）で行われるようになりました。うーん、残念。

## リ エッセイ

業務第二部機材第二課では、一般ノン・プロジェクト無償案件や環境プログラム無償案件を担当しています。案件を実施する際には、複数人でチームを編成して業務を進めますが、調達代理契約の締結、調達品目の決定、調達品目の技術仕様などを相手国関係者と話し合うため、何度か短期の海外出張をする必要があります。

案件の状況に応じて、海外出張に出る担当と後方支援する担当（国内担当）に分かれて業務を進めます。海外出張担当になるときもあれば国内担当に回ることもあり、当然ながら、どちらの業務も正しく理解しなければなりません。

JICSといえば海外業務に注目が集まりがちですが、国内担当も重要な役割を担います。例えば、入札図書に付属する「仕様書」に記載する技術仕様の確認を

目的とした出張の場合、事前に必要なカタログなどを揃え、仕様書の案も作成したうえで渡航し、相手国関係者との協議に臨みます。しかし、協議がこちらの思い通りに進むことは稀で、想定外の質問や新たな要請が持ち上がることが多々あります。この時、出張先で収集できる情報には限界があるため、国内担当に照会します。

国内担当は、素早く要点をつかみ、必要な情報を収集し、出張者へフィードバックします。また、出張先では大小さまざまな判断が必要になる場面にも遭遇します。出張者の一存で決められない事項については、国内担当が受け継ぎ、JICS本部内で話し合ったり関係機関に確認するなどして、対応方針を確認のうえ、出張者に伝達します。

このように、案件は、現地で先方と交渉・協議する出張担当の力だけでなく、後方支援する国内担当との連携作業で進んでいくものなので、今後もチームワークを大切に、業務を行っていききたいと思います。



▲ 出張先の東ティモールで相手国政府関係者、在東ティモール日本大使館員などと調達品目に関する協議を行う筆者（写真奥 左端）

## 案件の実施に不可欠な、国内担当による後方支援

岡村 卓司

業務第二部 機材第二課

## JICSの動き

### 「ワン・ワールド・フェスティバル」に出展

2011年2月5～6日、大阪国際交流センターで開催された、「ワン・ワールド・フェスティバル」に、JICSは外務省、国際協力機構（JICA）大阪センターなどと共にODA合同ブースの一員として参加しました。

合同ブースでは、「写真とイラストで見るODA」と銘打ったパネル展示とともにクイズラリーを行い、合同ブース全団体のクイズ解答者には世界各地の民芸品をプレゼントしました。

JICSのコーナーでは、JICSが行っている「調達」の内容や進め方について、小学校建設の例を挙げてパネルで紹介し、ODAやJICSの業務に関する質問などにお答えしました。



▲ 来場者にODAやJICSの業務内容を説明

### 国際理解教育への取り組み

JICSでは、より多くの方に、国際協力やODA・JICSの業務に対するご理解をさらに深めていただくために、総合学習の受け入れなどを行っています。

2011年2～3月には以下のような活動を実施しました。

日付	場所	テーマ	内容
2月17日	城西川越中学校	「日本の国際協力の現場から」	3年生を対象として英語による講演を実施
2月19日	日本女子大学附属中学校	「アフガニスタン×Peace～私たちにできること～」	2年生を対象にアフガニスタンにおけるODAやJICSの活動について講義を実施
3月15日	目黒区立東山中学校	「国際社会と日本～国際協力に志を～」	3年生を対象として国際協力の重要性などについて講演を実施

ODAやJICSの業務にご関心をお持ちの方は、JICSウェブサイトの「お問い合わせ」から、学校名、ご担当者名、実施を希望される年月日と時間、学年、人数、希望するテーマなどを総務部総務課 広報担当までお知らせください。ご連絡に基づき必要な調整をさせていただきます。



▲ 城西川越中学校で、スリランカ津波災害支援プロジェクトについて説明するJICS職員

## お知らせ

### ■ 「コンサルタント契約予定案件一覧表」のウェブサイト掲載を開始

JICSでは、当財団が調達代理業務を行う無償資金協力案件のうち、今後コンサルタント雇用を予定している案件に関して、当該案件の基礎情報や公示予定時期などを「コンサルタント契約予定案件一覧表」にまとめ、ウェブサイトへの掲載を開始しました。

詳細の決定後に行われる公示に先立ち、前もってウェブサイトでお知らせすることで、入札への参加を検討される方々の利便性向上につながれば、と考えています。

「コンサルタント契約予定案件一覧表」は、JICSウェブサイトTOPページ→調達→入札関連情報 (<http://www.jics.or.jp/choutatsu/koukoku.html>) にPDFを掲載しています。

### ■ 本誌へのご意見をお寄せください

読者の皆様からの、本誌へのご意見やご感想・ご要望を募集しております。いただいたご意見などは今後の改善に役立てていく所存でございますので、趣意をご理解のうえ、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、ご意見などはJICSウェブサイトの「お問い合わせ」からお寄せください。

総務部総務課（担当：石森・岡崎）

### \* 編集後記 \*

4月号の編集作業期間中、東北地方太平洋沖地震が発生しました。多くの方が被災され、各地に深い爪あとを残しています。この災害により日本が支援を受ける立場になって、あらためて国際協力の重要性とありがたさを感じています。復興への道のりは険しいものがあるでしょうが、世界中の人々の助けを借りつつ、日本中の皆が力を合わせてさまざまな困難に立ち向かっていく必要があると思います。

余震が心配されるなかで開催された理事会・評議員会では、2011年度の事業実施方針や一般財団法人への移行方針などが審議されました。今後は着実な事業実施とともに、組織としての新しい門構えの準備も進めていきます。

### 【個人情報の取扱いについて】

お寄せいただいたご意見・ご連絡内容などにつきましては、その内容に応じて『JICS REPORT』の改善、あるいは総合学習のお申し込みへの対応を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

そのほか、当財団の個人情報に関する取扱いについての詳細は、JICSウェブサイトの「個人情報保護方針」をご確認ください。